

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0015  
東京都東大和市中央 1-539-15  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

# 東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2024年(令和6年)8月16日 金曜日

無料

## 第147号

毎月発行

発行 2024年(令和6年)8月16日 金曜日

### 【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

#### 【砂越 豊】

宮城県生まれ、70歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の大崎上野は延期。乗けて縄文を日新の型は古くも東北文化を研究することを変えていく。この文化を本

## 【パリオリンピック・東北メダリスト関係者】 東北出身者も、東北の学校出身者も、選手も、コーチも、全メダリスト関係者を紹介します！

コロナ禍の最中に開催された三年前の東京オリンピックのあとを受けてのパリオリンピックだった。二十日間に亘って展開された手に汗握る競技はもちろん、さまざまな「話題」でも大いに盛り上がったオリンピックも今月十二日で終了した。

谷選手ばかりではないというところで、今回号でこのオリンピックのメダリスト全員を紹介しようと思う。

たくさんのメダリストのなかでも人気競技のメダリストたちは、オリンピック開催前から話題となり、また帰国後もあちこちのTVで引く張りで、そうした人気選手よりも、地味な競技のメダリストを積極的に取り上げたいと考え、トップに「近代五種」で銀メダルの青森県出身・佐藤大宗選手を取り上げた。

同じ銀メダルなのに、取り上げ方にあまりにも差があり過ぎであり、オリンピックを芸能タレントと同じように取り上げるのはどうかと思う。

スケートボード女子ストリートで銀メダルの赤間凛音選手、卓球女子団体銀メダルの張本美和選手、バドミントン女子ダブルスで銅メダルの志田千陽選手は有名になったし、メディアにも数多く登場した。



## 近代五種 銀メダル 佐藤大宗選手 (青森県出身)



佐藤大宗選手(東京新聞)

「馬術」「フェンシング」「水泳」「射撃」「ランニング」の五種目を一日で争う「近代五種」。一種目でも大変なのに、たった一日で五種目すべてをこなすには大変な体力が必要だろう。

しかも準決勝もあったという事は、予選もあったという事は、予選もあったという事で、何というきびしい競技だろう。

この競技は日本ではほとんどなじみがないが、それもそのはずで、オリンピックで採用されてから百二十一年目で男女通じて初のメダル獲得である。

決勝でゴールしてから、あまりの疲労でしばらく立ち上がれなかったというから、まさに苛酷な競技だ。おめでとうございませう！

## スケートボードストリート女子 銀メダル 赤間凛音選手 (宮城県出身)



赤間凛音選手子(NHK ニュース)

「スケートボードストリート」は出場選手の年齢が非常に若い。十三歳とか十四歳という選手たちがメダルを争う。二十歳を過ぎるとベテランの領域なのだろうか？とかく若い。

選手同士はきびしい戦いのだろうが、あまり悲壮感はないように見受けられて、視聴者としてはあまり肩が凝らずにすんで助かる。

良いプレーには選手同士が称え合うのもとてもいい。

銀メダルの赤間凛音選手は十五歳。最近の国際試合で何度も優勝しているのだから、銀メダルは悔しかったようだ。でも次のオリンピックの時はまだ十九歳。これから何度もチャンスがある。おめでとうございませう！



張本美和選手(Yahoo ニュース)

## 卓球団体女子 銀メダル 張本美和選手 (宮城県出身)

兄の張本智和選手の方がオリンピックデビューは早かった。妹である張本美和選手は今回初出場である。しかしそうは見えなかった。落ち着いてプレーをしていた。勝負度胸もある。とはいえ、ただいま十六歳。チームメンバーと比較するとかなり若い。国際試合に出るたびに強くなっている。末恐ろしい選手である。オリンピックもあと四回や五回は出場できるだろう。そのとき日本は女子卓球王国になって、中国チームに勝つことだろう。いや勝つだけでなく、勝ち続けていることだろう。まことに頼もしい選手である。おめでとうございます！

## バドミントン女子ダブルス 銅メダル 志田千陽選手 (秋田県出身)



シダマツペア(Yahoo ニュース)

「秋田美人」という評判がきっかけで一気に人気急上昇なのが、バドミントン女子ダブルス銅メダルの志田千陽選手である。ペアを組む松山奈未選手と「シダマツペア」と呼ばれている。このところ、日本のバドミントン女子ダブルスは非常にハイレベルな争いをしており、世界ランキング十位以内に三組がランクインしていたこともあった。そんなことで国内で勝ち抜けるのがむしろ珍しい種目となっていて、惜しくも東京オリンピックへの出場を果たすことができなかった経緯があり、今回が初出場銅メダルとなった次第。おめでとうございます！

## バドミントン混合ダブルス銅メダル 渡辺勇大・東野有紗選手 (福島県富岡高校出身)



ワタガシペア(au Web ポータル)

バドミントン混合ダブルス銅メダルの渡辺勇大・東野有紗選手は「ワタガシペア」と呼ばれ、とても仲がいいので恋人関係かと疑われたこともあったが、まったくそうではなかった。両選手は福島県富岡町の富岡一中から富岡高の卒業生である。同町はバドミントンなどの選手育成を目指す構想のなかで、バドミントン指導者を招き、全国から多くの選手を集めたがそこに二人も含まれていた。富岡一中在学中に震災と東京電力福島第一原発事故に遭い、全町避難で猪苗代町へ移動し、同町内の富岡高サテライト校に進学して練習を重ねた経緯もあった。おめでとうございます！

## 男子ゴルフ銅メダル 松山英樹選手 (宮城県東北福祉大学出身)



松山英樹選手(JGA 日本ゴルフ協会)

アジア人史上初のマスターズ・トーナメント優勝を覚えているゴルフファンもたくさんいるので松山英樹選手のことを知っている人は多いだろう。前回の東京オリンピックにも出場し、惜しくもメダルは逃したが、今回は銅メダルを獲得した。最終日、筆者も深夜のテレビにかじりついて観戦したが、何度も優勝に近づいたもののパットが入らず残念ながら銅メダルに終わった。ゴルフアールとしてはまだまだ現役が続けられる年齢なので、いつしか金メダルを獲って欲しいものだ。宮城県のゴルフの名門の東北福祉大学の出身である。おめでとうございます！

## 女子レスリング 伊調馨コーチ (青森県出身)

オリンピックでの女子の四連覇は世界中で伊調馨氏しかない。もちろんレスリング女子の四連覇も伊調馨氏しかない。そして、百八十九連勝という記録もすごい。青森が産んだスーパースターである。今回のパリオリンピックで久しぶりにその名前を耳にして、目にしてとても懐かしかったし、いまもレスリングのコーチとして活躍されていることを知ってとてもうれしかった。ましてやレスリング女子金メダリストの藤波朱里選手のコーチであることを知ってなおさらうれしかった。今後もたくさんメダリストを送り出して欲しい。大いに期待している！

# 東北水産業は温暖化による大異変に襲われている! 獲れる魚が大変化、水産関係者は今後どうするのか?

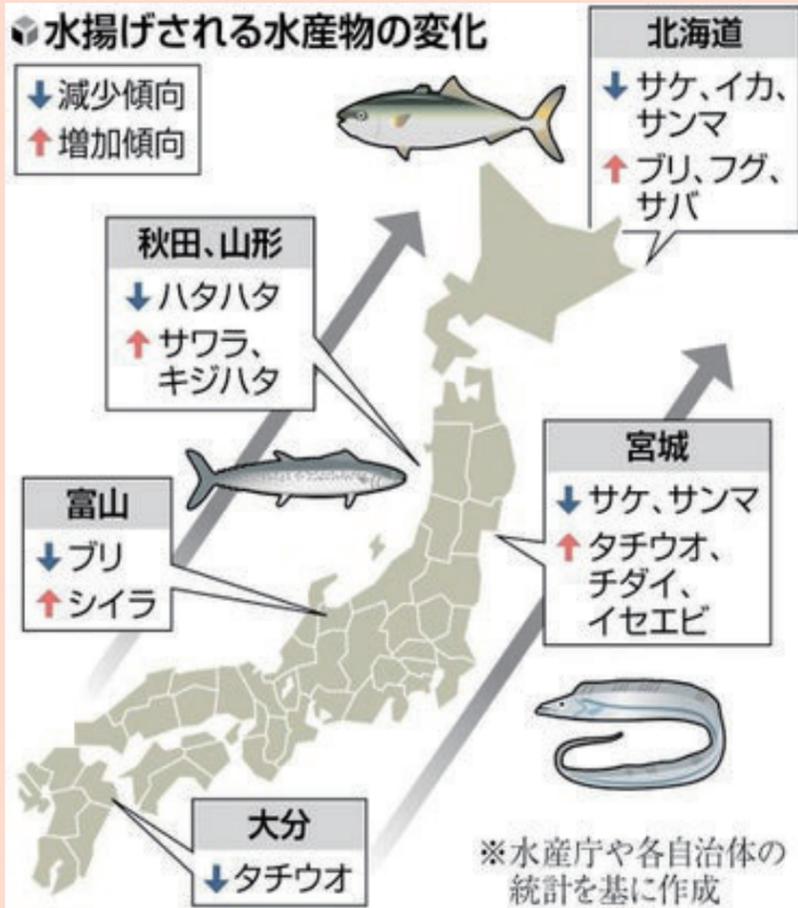
## 東北の海で異変発生

いま、東北周辺の海では想像を越える大異変が発生している。

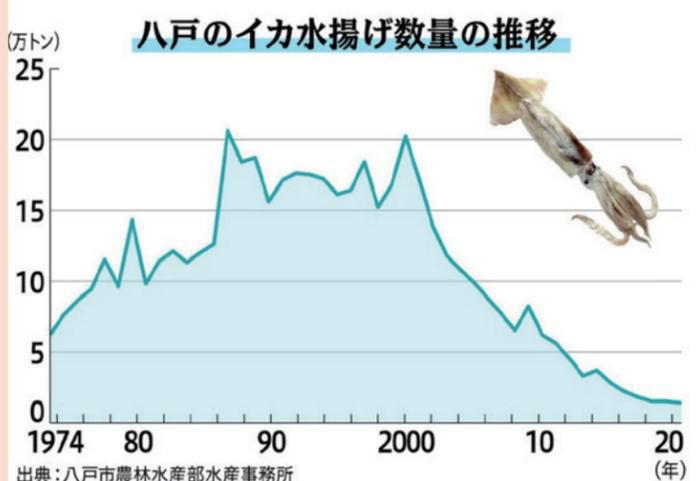
それは、従来の東北水産業の枠組を根本から破壊するほどの規模で進行中であり、しかも一定方向の変化ではなく、変化は常に流動しており、水産関係者もどうすればいいのか途方に暮れている状態である。

東北周辺の海でいったい何が起きているのか? 昨年十一月の読売新聞オンラインからの記事を以下に引用する。

全国の漁港で水揚げされる水産物の種類に変化が生じている。日本近海の海水



【全国の漁港で水揚げされる水産物の種類に変化が生じている】  
読売新聞オンライン 2023.11.16 より



【青森でイカ・サバ激減——日本の海の異変、ひたひたと迫る「魚種交替」と「温暖化」 その① Yahoo ニュースオリジナル特集より



【青森でイカ・サバ激減——日本の海の異変、ひたひたと迫る「魚種交替」と「温暖化」 その② Yahoo ニュースオリジナル特集より

## 日本全体の漁獲がどう変化しているのか?

大変化は東北周辺の海に限ったことではないのである。左の表を見て分かるように、日本周辺全体の魚が、南から北へ大移動しているのだから。

温が上昇し、漁場が北方にシフト。温かい海を好むブリが北海道で大漁となり、西日本が主産地のタチウオが東北でとれるようになったりしている。新たな魚が水揚げされるようになったりも漁獲量が安定せず、漁師らが頭を悩ませている。(浜田萌、東北総局白石通信部 吉田一葵)

## 缶詰業界も四苦八苦

影響は鮮魚だけではなく、水産加工業にも甚大な被害をもたらしている。

また、この図には掲載されていないが、東北周辺の海では最近西日本で獲れていた鰯が大量に水揚げされている。鰯に慣れていない東北の魚市場では大安売り、東北では鰯料理には慣れていないので人気がないという一方で、これまでの鰯の産地では大変困っているという状況が発生している。地元食文化に合わない

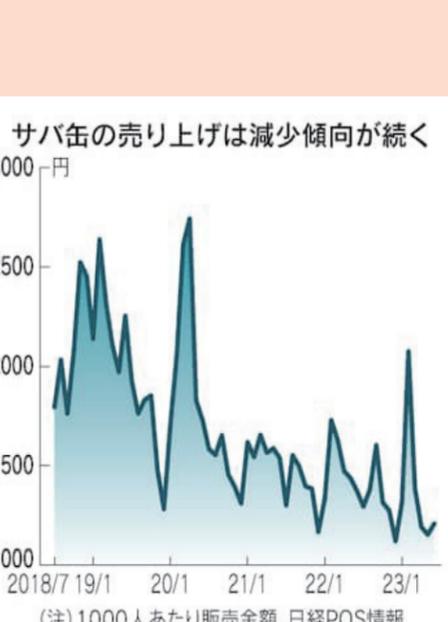
## 直近の現地の缶詰専門会社の情報

当新聞が懇意にしている宮城県石巻市の缶詰専門の会社からの直近の情報によれば、事態はさらにひどいようだ。

この異常気象、温暖化で缶詰業界だけでなく水産業界全体が原料である鰯、秋刀魚の不漁で痛んでいる。石巻の冷凍庫も水揚げがなくなり減っているにも関わらず電気料金など経費は上がる一方で、経営の危機的状況である。

少前、健康志向の高まりや、新型コロナウイルス禍での備蓄ニーズで注目されたサバ缶の人気にも最近陰りが出てきているようだ。サバの漁獲量減少など原材料費の上昇で価格が高騰し、単価の安いイワシ缶などに需要が流れている。水産缶

詰全体でも販売が減る中、メーカー各社は容器改良などに知恵を絞って対応しようとしているようだ。



一時人気だったサバ缶の売れ行きも落ちている (日経新聞より)

基本的には水揚げが有る前提で設備投資しているのだから、設備が活かせないというジリ貧は目に見えている。水産都市石巻も異常気象が続けば危うい。

**即効性のある緊急対策も打てないのか?**

一定方向だけの変化ならばまだしも、常に状況が流動化している状況ではな

かなか効果的な対策も打てないだろう。しかも大自然が相手、人間によるわずかな工夫で何とかするものでもない。とはいえ、東北水産関係者も生きていかなければならない。ではどうすればよいか?

まず、全国の水産関係者の情報交換は必須だ。当面の対策として、各地域の水産資源の過不足を埋める手立てを考へること。そのためには、従来の消費者への流通ルート以外に、水産関係者同士の流通ルートにすぐ構築すること。あとは、大変化を見極めた根本対策だが、これには時間がかかりそうである。

# 620517北巡

紀行文、というほどでもないが、たまにこの連載でも東北のどこかに行った時のことを書いたりしている。二〇二二年一月の第二二六号では「津軽点描」と題して、津軽半島を巡った時のことを紹介した。翌二〇二三年一月の第一三八号では「奥只見湖探訪」と題して、東北から最も行きにくいのではないかとされる奥只見湖について紹介した。

今回は下北のことを紹介したい。

## 下北と言えば下北半島

「津軽点描」にも書いたが、下北は青森県東部から突き出た、本州最北端の大間崎(おおまさき)のある、まさかのような形の半島である。ちなみに、私のような東北人にとっては、「下北」と言えばこの下北半島のこと、または下北半島のある下北地域のことを指すが、首都圏の人にとって

は「下北」と言えば下北沢のことであるらしい。下北沢は「下北沢だそうなので、それを「下北」と略するのはどうなのだろう」と気がしなくもないが、とにかくこちら「下北」と言えば、それは青森のまさかのような半島のことと一択で、それ以外の意味はない。

## この世とあの世をつなぐ場所

下北で大間崎と並んで知られるのは、何と言っても恐山である。日本三大霊場の一つとされ、亡くなった人の霊を呼び寄せてその言葉伝えるイタコも有名である。恐山菩提寺に隣接して火山性ガスが吹き出している荒涼とした区域があり、様々な名前の地獄に見立てられている。その地獄に隣接している波静かな宇曽利湖は極楽に見立てられていて、その対照的な景色が印

象的である。

個人的に印象深いのはそれら「地獄」と「極楽」の間に建つ八角円堂である。ここには、遺族が亡くなった人のために奉納した衣服や靴、草履、その他様々な品物が奉納されている。「津軽点描」で紹介した、津軽半島を代表する霊場である川倉賽の河原地蔵尊も同様に亡くなった人のために様々なものが奉納されているが、ここ恐山も生きていく人と亡くなった人がつながる場所であることを実感する。

そう言えば、恐山菩提寺の本尊は地蔵菩薩、川倉賽の河原地蔵尊ももちろん本尊は地蔵菩薩である。仏教では六道輪廻と言って、人が亡くなると六つの世界のいずれかに生まれ変わるとされるが、地蔵菩薩はこれら六つの世界を行き来して人を導き救うとされる。地蔵菩薩が六体並ぶ六地藏が多く見られることはまさにこのことの現れである。この世とあの世をつなぐ場所とされるこれらの霊場に相応しい本尊である。そして、どちらにも死者の言葉を伝えるイタコがいることも、まさにこの世とあの世をつなぐ場所というところを実感させられる。

## 本州最北端の大間崎

本州最北端の大間崎からは北海道が間近に見える。その手前、大間崎から約六〇メートルほど沖合には灯台のある無人島、弁

執筆紹介

大友浩平  
(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>

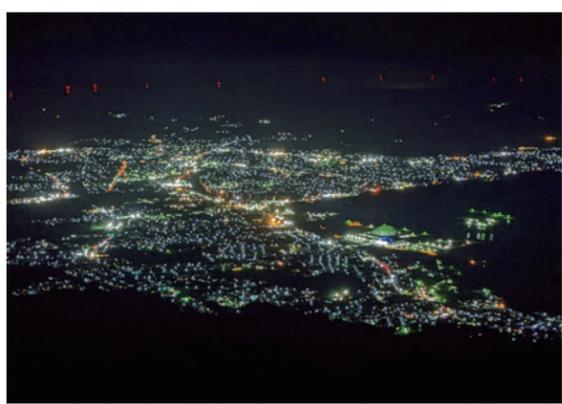
Facebook  
<https://www.facebook.com/kouchi.ootomo/>




宇曽利湖は極楽浄土に見立てられている



本州最北の繁華街のネオン



釜伏山からの夜景はアゲハチョウの形



寒立馬は一年中放牧されている

天島があるので、厳密には大間崎よりも弁天島が本州最北端なのではないか、という気もする。ただ、この弁天島にある灯台は大間崎灯台という名称なので、弁天島も含めての大間崎なのかもしれない。ちなみに、この大間崎、東側も西側も海が見える。すなわち、海から上る日の出と海に沈む日の入りが見られる稀有な場所である。

大間崎のある大間町は初競りでもすごい高値がつく大間まぐろで有名であるが、もう一つ、大間町には地元では「陸(おか)まぐろ」と呼ばれる大間牛もある。おま温泉海峽保養センターでは、あらかじめ予約すれば大間まぐろのまぐろ丼と大間牛のすき焼きがついた「大間まぐろ・陸まぐろ食べ比べ定食」が食べられる。大間町にはもう一つ、本州最北端の地ビールがある。

大間町にはもう一つ、本州最北端の地ビールがある。しかも、自分でも栽培した山葡萄を一〇〇パーセント使ったワインだそうである。

## 寒立馬のいる静かな岬

大間崎は下北の北西部の先端だが、下北にはもう一つ、北東部に尻屋崎(しりやざき)がある。大間崎は本州最北端ということもあり、周辺に土産物店や食事ができる店などもたくさんあって賑やかな感じであるが、それと対照的に尻屋崎はもの静かな感じである。尻屋崎灯台だけがポツンと立っている岬で、その灯台に上って見下ろす海の景色が美しい。

## 下北の名物料理

下北にある最大の都市は、まさかりの刃の付け根部分にあるむつ市である。仙台からだと東京に行くよりもはるかに距離がある。何せ、対岸の下北には「いかずし」がある。ポイルしたいかにしようかと酔で味付けしたキャベツや人参とゲソを詰めたもので、さっぱりとした風味が何とも言えず美味しく、お薦めである。

## アゲハチョウのような夜景

下北の最高峰は、標高八七八メートルの釜伏山(かまふせやま)である。頂上付近に展望台があり、そこから見える夜景は、「アゲハチョウが羽を広げたような」と形容される独特の形である。「日本夜景一〇〇選」、「日本夜景遺産」にも選出されている。山頂にそびえ立つ四角い建造物は、航空自衛隊のレーダー施設である。

## ぜひのんびり下北巡りを

釜伏山まではむつ市街から車で四〇分くらい掛かるが、街中からほんの少し離れた高台にあるむつグランドホテルのむつ湾に面した部屋から見える夜景も、手軽に楽しめる。同ホテルには天然温泉もあり、下北観光の拠点としても使い勝手が良い。

### 明かされざる信仰の真実を 求めて―東北ふしぎの森の事

所謂原付バイクなどというもので長距離を走り旅している、やはり手痛いのがパンクというトラブルである。私のカブのタイヤは通常より小さく太い為に素人がその場で手を付けるのが難しく現地のバイク店を探して車体を引き摺っていく事になる。これまでの二十数年間で京都、北海道、秋田、岩手・と数知れずバイク店のみならず場合によってはパンク現場近くの家の方々まで巻き込み、さんざん世話になってしまったものであるが、中でも今だから話せる?ような、最も忘れ難いパンク事例がある―それは宮城県塩竈市での出来事であった。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始めると東北好きである。

「仙台ならではの面白い所はどこか」という問いかけに困るという声は多いけれども、近代化の名に置いて残すべき名建築を破壊し尽くしてきた言い訳のように「観光には学ぶ姿勢・想像する姿勢が大切ですよ」などと嘯く事も可能ながら、ここはもはや「仙台市民を以つてしても壊せない」最強の砦として仙台内外、大小の古社や謎多き信仰拠点を堂々と紹介するのはどうか―と提案しつつも、更に懐深き東北一円の謎にまで誘いたくも思うのである。

前出の鹽竈神社は正式には、『志和彦神社・鹽竈神社』という法人で、志和彦神社は江戸期まで岩切地方にあった小さな社を明治政府が突如国費を投じて鹽竈神社隣へ遷宮させたという謎めいた経緯を持ちまた鹽竈神社自体も主祭神が正面拜殿ではない「別宮」におはすなど謎多き社である。一方県南には日本三大稲荷の一つ(諸説あり)竹駒神社とその姉妹神とされる館腰神社、実方中将を崇めた故事で知られる愛鳥道祖神社、かの紀伊国・熊野三山を地理的・方角的に同一勸請した名取熊野三社、そして東北最大の金運・利益とまで謳われる金蛇水神社と眠れなくなりそうなエピソードを秘めた各社が集積し都市仙台近郊にも元・仁和寺多利大権現として知られる

二柱神社があつて、都心に至つても絶大な縁結びのご利益で知られる野中神社に義経伝説を擁する雨宮神社・磐上神社、その一方頼朝との関連を持つ朝日神社など、その多くが真偽不明な謎の深き故、明確な神の正体や真実を示す事ができない歯痒さはあるが、多くの人々にとつては神様が本当は何者なのかなど関係なく地元根付いた靈験あらたかな存在として日々交感を望み、願懸けを続けていくのだらうと思う。

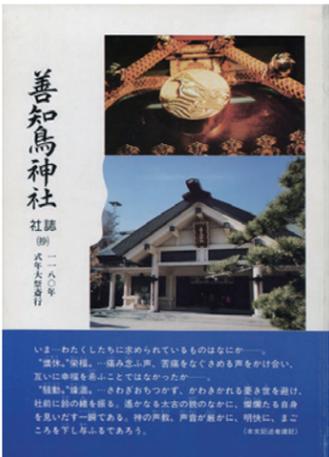
仙台都心の神として今回特筆しておきたいのは「瀬織津姫」を祀る瀧澤神社である。瀬織津姫は以前、謎の女神たちについて綴つた拙稿でも触れた、神道の大祓祝詞に最重要の神として登場しながら、古事記などの史書からは黙殺されている謎深き神であるが、現在の瀧澤神社は元々は現在青葉山の亀岡八幡宮鎮座地にあつた。つまり仙台藩初代政宗公が仙台開府以前に青葉山の高所に祀られていたという瀧澤神社を四代綱村公が一説には方角的理由から当時街なかにあつた亀岡八幡宮(伊達氏の氏神)と鎮座地を交換したのである。

興味深いのは、元々瀧澤神社があつた青葉山の高台と、広瀬川を南北から挟んだ対岸の高台には、かの大崎八幡宮がある事で、これについては以前二ワタリ神について綴つた拙稿で触れたように、大崎八幡宮以前の当地には水に関わる神である二ワタリ関連の聖域があつた可能性があり、そうなるも広瀬川は以前、この地点の南北から異なる水神に挟まれる形で守護されていた事になるのだ。ちなみにこの仙臺空襲の際街なかに移された瀧澤神社は「火防の神」の異名の通り戦火を焼け残つたが青葉山の亀岡八幡宮は社殿を悉く焼失してしまつたのである。

ところでアラハバキ神、あるいは二ワタリ神のように東北から関東にかけて信仰が分布し、特に東北中心であつたと推測できる信仰対象はいくつか考えられるが、その中に「烏兔」と名のつく山々の存在がある―という事にも注目したい。都市仙台の南西の森に屹立、僅か三二〇メートル強の低山ながら沖合からも目立って確認でき、名取富士とも称される太白山は、かつては「烏兔ヶ森」「生出森」などと呼ばれていた。「オド」「ウド」転じて「オイデ」などは縄文時代以来の呼び名で、古い信仰とともに山頂に神が祀られ、後に源頼朝が八幡社を勧請したところ先住神の怒りを買ったという伝承もある。

「ウツ」「オト」とは、アイヌ語で「突起」を意味し特に「烏兔」「善知鳥」「宇道」などと書く場合は「連峰・鈍頂の山・丘」を表す―と、関連の説明ではさらさらと流しているのだが割と重要な事柄が含まれているのを見逃してはならないのだ。そう「善知鳥」である。青森県青森市の総鎮守にして市自体の「発祥地」でもあるという、他ならぬ善知鳥神社の事だ。

善知鳥神社といえば、かの棟方志功が幼少期よく遊び回つた場所としても知られる(祭神の宗像三神と名が被る、不思議な符合もあり)が、実は神社の由来も青森市の成り立ちも、真偽の疑わしい内容が多いのだという―第十九代允恭天皇の時代、善知鳥中納言安方が陸奥北端を平定し宗像三女神を祀つた―と、社伝にはあるが、允恭天皇は四、五世紀の人物でその時代に奥州平定はあり得ないし、中納言安方―おそらく藤原安方―は中央貴族で坂上田村麻呂を凌ぐ偉業を奥州で成した記録はない。



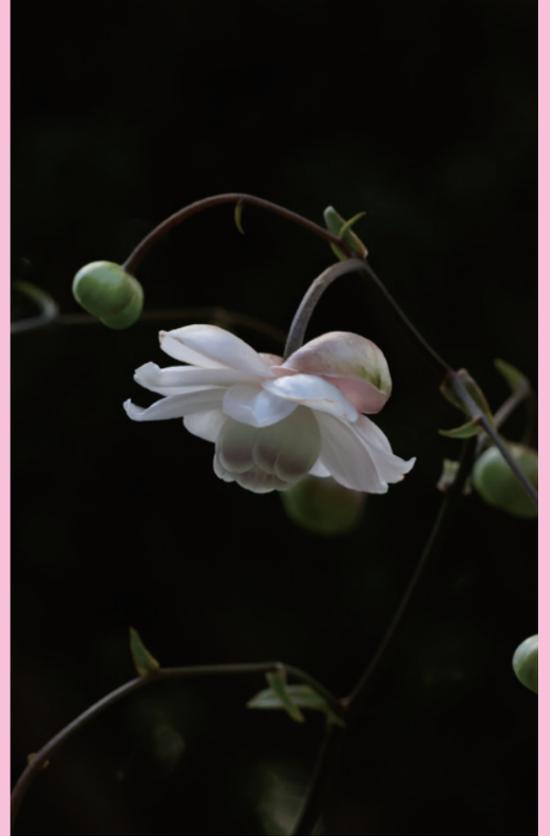
善知鳥神社・社誌より



ハスの花



ノシメトンボ



レンゲショウマ



ボタンクサギ

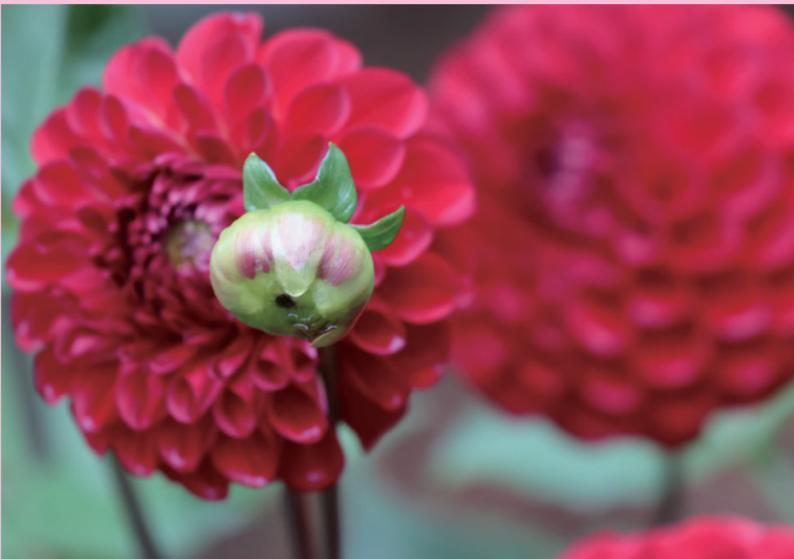
今月の東北では、観測史上二度目という、海側からほぼ真西に向かつて東北中部沿岸に上陸するという変わったルートをとった台風が襲来した。そして、岩手や宮城に大雨を降らせた。先月の七月には、日本海

側から真東の山形に向かつて進んだ「線状降水帯」が発生した。異常な大雨があちこちで降り、甚大な被害をもたらしたばかりである。双方とも、原因は地球温暖化による海面温度の急上昇の影響であるという。



オオバセンキョウと蝶

例年だと、暦上の「立秋」では、猛烈な暑さも残るが、日陰に入るとひんやりして、かすかに秋の気配が感じられるのがこの季節だが、すっかり様相が違ってきた。



ダリヤと子供

シリーズ 遠野の自然

「遠野の立秋」

遠野 1000 景より



カタツムリの赤ちゃん



クルマバッタモドキ

# 新シリーズ【東北を再発見する旅】…⑪ 列島北限の前方後方墳 貴重な古墳群だが、放置されたままでもいまでも完全に消滅しそうだ



保土塚古墳の円墳部分を裏側から見る



保土塚古墳の円墳部分を表側から見る

筆者の生まれ故郷の隣町の宮城県北部の美里町には貴重な古墳群がある。いまから十年ほど前、筆者が古代東北に関する映像作品を企画するにあたって、生まれ故郷周辺の「古墳」や「横穴墓」の現地調査をした際にそれらの古墳群を見て歩いたのだ。

紀の建造と推定される「保土塚(ほどづか)古墳」だけである。元々は「前方後円墳」だったようだが、直径五十メートルの「円墳」のみが残っており、いまはフィールドアスレチックの一部と化している。

「保土塚古墳」の説明版がなければ古墳であるとは誰も思わないだろう。私事で申し訳ないが、筆者が幼少のころ、いまから六十年以上前のことであるが、この古墳の周りを、古墳とはまったく知らずに駆け回っていた記憶が蘇った。

「保土塚古墳」のすぐ隣には「後藤神社古墳」の杭だけが残っているが、古墳の形はすでにない。「保土塚古墳」と同じ時期の建造であろう。

探すのに一苦労したのは、それらのふたつの古墳から一キロほど離れた場所にある「京銭塚(きょうせんづか)古墳」である。専門地図にはかろうじて掲載されているが、近くに行ってみてもそれらしき入口が見つからない。「地図上の場所」の周辺を何周もしたが見つからないのであきらめて帰ろうとして、何気なく奥の方に民家がある小さな坂に少し入ったら、その坂の途中に「京銭塚古墳」の説明版があった。

しかし、あたりには「古墳」は見えない。民家へ上る小さな坂があるだけである。すでに「古墳」のほとんどが切り崩されており、原形をとどめない状態である。

説明版を詳しく読んでみると、結構大型の「古墳」で、主軸が六十六メートルもある「前方後円墳」ならぬ「前方後方墳」である。この形状の古墳としては、日本最北端だという。それにしても保存状態は

最悪である。東北の遺跡保存には国の予算は下りないのであろうか？西日本の遺跡は比較的大事にされている印象があるが、格差がありすぎだと思わずにはいられなかった。

クラウドファンディングの時代だから国の予算なしでも保存できるのではないかとも思ったが、きつと「規制」がじやまするだろう。



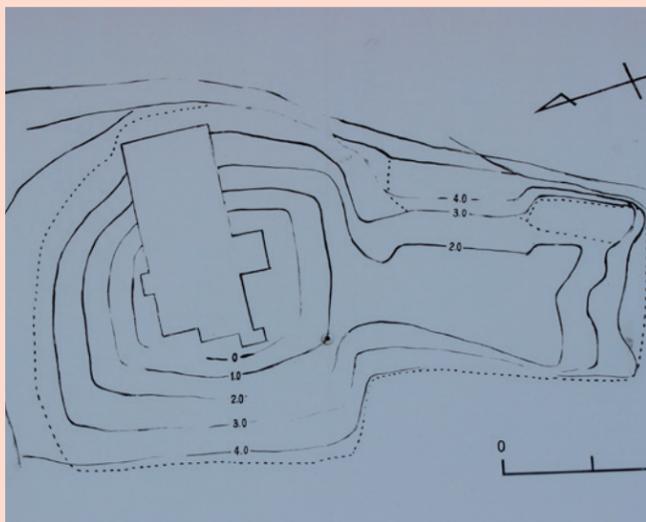
保土塚古墳案内板



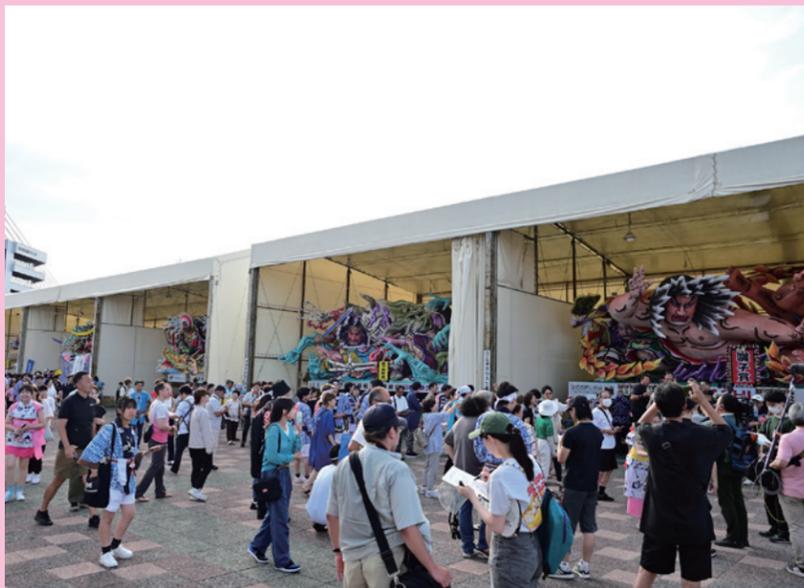
京銭塚古墳案内板



保土塚古墳はフィールドアスレチックの一部になっている



京銭塚古墳全体測定図



写真でお伝えする 東北の風景  
『青森ねぶた その①』  
写真撮影 尾崎匠

